



23 龍造寺隆信座像

- 桃山～江戸時代前期
- 陽興寺

龍造寺隆信が九州制覇の根拠地とした須古城は、隆信没後に弟信周の居城となり、末裔は鍋島家「親類同格」須古家として明治まで続くが、その菩提寺である陽興寺（白石町）に伝わる隆信の木製座像である。素襖に掛け袈裟の在家出家者の姿で、小ぶりの鬘の表現等には戦国時代の様式的影響が看取でき、17世紀代を下限とする大名肖像作品と推測される（写真鑑定：佐多芳彦立正大学教授〔専門・有職故実〕）。現存する最古の隆信像で、今回の展示が初公開となる。